



## JMAS 活動報告

2010年12月

世界中の紛争跡地には今なお膨大な数の地雷・不発弾が残されたままであり、人々が厳しい環境の中で生活しています。JMASは専門技術を有する自衛隊OBが中核となって世界各地で地雷・不発弾処理支援活動を行い、安全な環境を造っています。

### ラオス不発弾処理 クラスタ爆弾禁止条約第1回締約国会議開催

2010年8月1日にクラスタ爆弾禁止条約が発効し、これを受けて11月9日～12日に首都ビエンチャンでクラスタ爆弾禁止条約第1回締約国会議が開催されました(参加114カ国、参加者約1000名)。この一環としてクラスタ爆弾の被災地研修がシェンクワン県で行われることになり、JMAS シェンクワンの中塩、刈屋両専門家がラオス不発弾処理機関(UXOLao)シェンクワン事務所に協力して準備に当たるとともに当日は説明を実施しました。クラスタ爆弾子弾(ボンビー)は、地雷と異なり不規則に散在するため、探査には集中と根気が必要であり、また、動かすと危ないためその場で1個1個爆破処理することなどを理解して頂きました。これまでシェンクワン県だけで約4万9千個のクラスタ爆弾子弾を処理してきましたが、来年3月をもって同県における不発弾処理事業を終了します。



徳永外務政務官及び横田大使に状況説明する中塩専門家



信管離脱を指導する中條専門家(中央)



クラスタ爆弾子弾の爆破処理

### アッタプー県における不発弾処理事業

今年4月からラオス最南部、ベトナム、カンボジアと国境を接するアッタプー県で、新しい不発弾処理事業が始まり中條専門家が一人で赴任しました。この地域は、ベトナム戦争当時、北ベトナムの物資の補給路(ホーチミンルート)が走っていました。これを阻止するため米軍は空爆を続けたため、当時の不発弾特に大型爆弾等が多数残っています。これらが、昨年のケッサナ台風の被害地や、道路工事現場から多数発見されています。雨季に入る前の4月から6月の3ヶ月間で250Kg大型爆弾を15発処理しました。



クラスタ爆弾子弾の発見状況を説明する中塩専門家

### ラオススタッフ



島本 黒川 森川 中條 中塩 刈谷

# アンゴラ地雷処理・地域復興

JMAS アンゴラは、首都のルアンダ市から約 70Km北東のマブバスという村(元陸軍の駐屯地跡及びその周辺に住民約 1300 人以上が住んでいます)の地雷処理活動を実施しています。外務省の日本 NGO 連携無償資金と企業 3 社(コマツ、住友商事及び豊田通商様)の官民両者からの密接に連携した支援を受けての NGO 活動で 2008 年 6 月から活動を開始し現在 3 年目の中間です。



プロジェクト名「アンゴラ共和国ベンゴ州における地雷処理・地域復興支援事業」となっているとおり地雷処理活動と同時に地域復興支援活動が含まれています。JMAS アンゴラの事業は、「官・民・NGO 連携」と「地域復興支援を含む」ところに特徴があり、注目されています。

マブバス村における地雷処理事業は、2012 年 5 月完了を予定しています。



対人地雷除去機ナゼーラ号



アンゴラ人道的地雷処理委員会主催の年次公式会議に出席(中央:土井代表)



アンゴラ事業を視察する野中理事長(10/3-10)



危険回避教育終了後、画材をプレゼント



アンゴラスタッフ

福 近藤 土井 奥野



JMAS 基地に遊びに来た子供たちに紙風船をプレゼント

# アフガニスタン地雷・不発弾処理

アフガニスタンで実施中の地雷・不発弾処理事業は事業開始以来 5 年目に入りました。その間、地雷・不発弾約 8600 発を処理し、約 69 万平方メートルの土地を安全化して、地元コミュニティに引き渡しました。地元では安全化された土地を牧草地や農地として利用を始めています。

治安は一向に改善の兆しを見せませんが、現場であるバグラム地区は比較的治安も良く、地元住民との信頼関係もあり、事業の継続には問題ありません。代表以下年に 4 回程度パキスタンからアフガニスタンに渡航し、現地スタッフの指導に当たっています。



DDG との MOU 締結(中央: 寛代表、右: 横山主任)



炎天下で作業する処理隊員

## アフガニスタン、パキスタンスタッフ



櫻井 内之浦 寛 横山



# パキスタン水道改善

パキスタンマリー地区で実施中の水道改善事業は事業開始から 2 年目ですが、4 か村で貯水タンク 10 基建設、6 基修理し、また導水管を延 17Km 敷設しました。

安全で良質な飲料水の提供により、住民を水に起因する疫病から守ると同時に、女性や子供にとって水汲み等の重労働がなくなり大変感謝されています。



水を汲みに来た女性



設予定地の視察(右側中央: 寛代表、櫻井主任)



建設中の貯水タンク



完成した貯水タンクの検査

# 海外で活動しているスタッフを紹介します

## ラオス不発弾処理専門家 中塩 孝（なかしお たかし） 67 歳



プロフィール: 鹿児島県出身、昭和 34 年陸上自衛隊武器学校に入校、安平・吉井・多田各弾薬支処、北部方面総監部付隊、第 11 武器隊、(第 2 次カンボジア派遣施設大隊不発弾処理班長)安平弾薬支処勤務を最後に平成 9 年定年退官

私は、退官後機会があればカンボジアに行きたいという気持ちがありました。ある部隊の創立記念日に参加した際 JMAS に勤務中の先輩に声をかけて頂き「どうだ」の一言に JMAS の会員になり、2005 年 4 月から JMAS カンボジア不発弾処理の仕事に就きました。

PKO から 10 年余り過ぎたカンボジアを見て復興振りに驚きました。2007 年 8 月まで 2 箇所の州で CMAC の隊員達と一緒に楽しく時には厳しく付き合い、村に行っては子供達と手を繋いで不発弾の回収をしました。「この子等の為に」という思いは強くなりました。又、毎日爆破処理する音を聞いては「この国から〇〇発の不発弾が無くなった」と独り言が出た事を思い出します。2008 年 11 月から 2009 年 3 月までラオス、2009 年 5 月から 10 月までカンボジア、そして 2010 年 5 月から 2011 年 3 月までの予定で 2 回目のラオス勤務中



不発弾(砲弾)の識別要領を教育



UXO Lao チームリーダーに要図説明を教育

す。

2 つの国の不発弾処理の仕事に携わって内容は若干違いますが両国は未だ戦後処理が終わっていない事では同じだと思います。

子供達が安心して遊び、不安なく農作業の出来る環境が一日でも早く訪れる事を願っています。

沢山の人間に支えられての仕事ですが「安全第一」をモットーに、UXO Lao(ラオス不発弾処理機関)の隊員達と毎日を送りたいと思います。

今後も皆様方の温かいご支援を頂きます様お願い申し上げます。

## アンゴラ地雷処理(機械整備)専門家 奥野 信一（おくの しんいち） 66 歳



プロフィール: 富山県出身、昭和 40 年農林省農業機械化研修所に勤務後、青年海外協力隊員として 2 年間カンボジアに派遣。昭和 43 年コマツ入社、平成 14 年同社を定年後、住友商事及び丸紅で勤務。この間、タイ・インド・パキスタン・シリアなど 7 カ国で建設機械の技術指導、普及に従事

今年 7 月に赴任して間もなく、「地雷処理専門家としての仕事の他、水揚げ支援活動も担当」との指示を受けました。住民の必要な水はもっぱら女性たちが比高差約 40m、距離 0.5~1Km 以上離れた川まで行き、ポリバケツで水を汲、

み、頭の上に載せて運んでいます。準備は全て完了してしまっていたので、あと 1 週間もあれば完了できると見積もりました。ところが、ポンプは単純な構造・機能で、高低差が 10m 以上になると性能を発揮しないことに気づくまで失敗の連続でした。タンクの取り出し口はプラ



川辺ポンプ設置周辺



揚水の取水開始

スチックにネジ山を付けた粗悪品、タンクとポンプ間の

継ぎ手やバルブはゴムパッキンが既に破損しているものや錆ついた物が多く、部品探し・代用品作り・再修理を繰り返しました。水揚げ場のガードマンに身振り手振りで説明し、見せて・やらせを繰り返し、2 名がなんとか始動前点検・始動・停止を習得しました。現在、婦女子の重労働の軽減に役立っており、水場に来るのは日に約 40 名ですが、次第に増えそうです。

皆様のご理解とご支援の賜物と心から感謝しつつ充実した日々を過ごさせていただいています。本当に有り難うございます。

# カンボジア不発弾処理

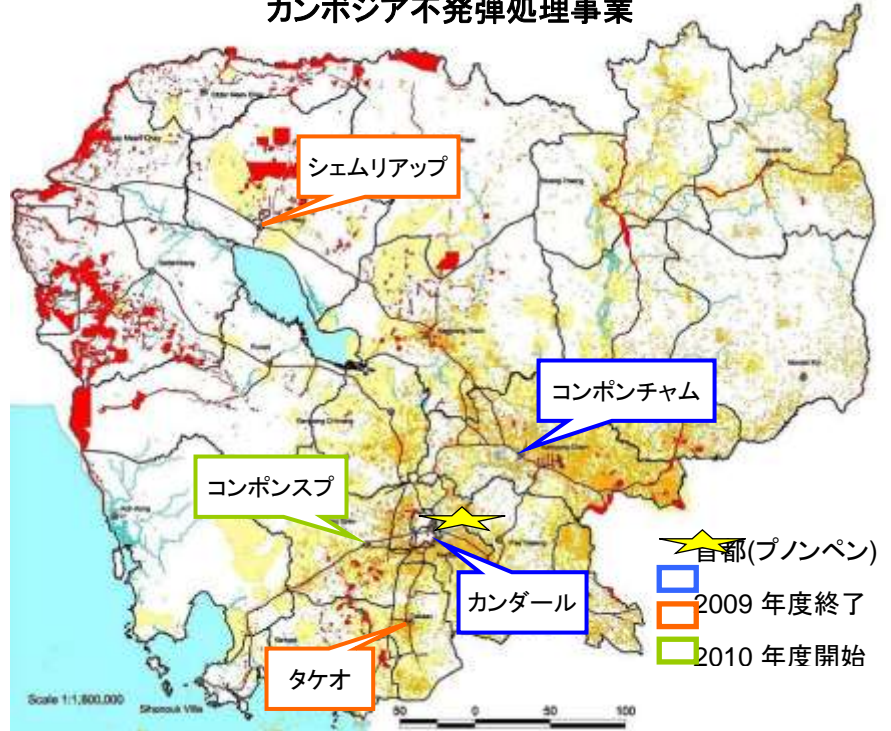
カンボジア不発弾処理事業は 10 月 7 日、2009 年度事業が無事故で終了し、空白期間もなく翌 8 日から 2010 年度事業が開始されました。2009 年度事業でコンポンチャム州、カンダール州での活動は終わり、2010 年度事業は継続中のコンポンスプ州に加え、新たにシエムリアップ州、タケオ州での活動が始まりました。

特にシエムリアップ州は世界遺産でもあるアンコールワット遺跡群があり、カンボジア王国としてもこの貴重な観光資源の安全化は高い経済効果を生むと、大きな期待を持っています。アンコールワット遺跡群には日本人観光客も多く、JMAS の活動、ひいては日本の援助の広報効果も期待できるものと思われます。

また、タケオ州は陸上自衛隊が初の PKO 活動として派遣された縁の州です。



カンボジア不発弾処理事業



今年 10 月をもってコンポンチャム州における 4 年間の不発弾処理活動は終了しましたが、終了にあたり、同州の学校にお茶の水ロータリークラブの皆様から 5 個の「平和の鐘」をご寄贈いただきました。

これまでは、田舎の多くの小学校が、火薬を抜いた不発弾を吊るして始業の鐘にしており、平和になりつつある小学校には不似合いな光景でした。これからは、「不発弾に触らないで」という言葉を彫り込んだ鐘が、平和の美しい音を響かせてくれます。

カンボジアに残存している不発弾を取り除くまでには、まだまだ長い年月がかかりますが一人一人が、「不発弾に触らない」決まりを守り、注意をすれば事故は防ぐことができます。また、カンボジアの田舎では、時間という観念もあまりなく、昔から鶏の鳴き声と朝日とともに起きて、夕日とともに 1 日を終える素朴な日々が続いてきました。小学校に鳴り響くこの鐘が、「時間を守ることの大切さ」を伝え、時間という観念をしっかりとった子供たちが、発展して行くカンボジアの明日を支えていくことができるようになることを願います。



カンボジヤスタッフ



渡邊 古賀 丹田 新井 高山 高田 佐藤 高木 今井 亀井

# カンボジア地雷処理・地域復興

バタンバン州ラタナックモンドル郡トラエン・コミュニティにおける、「安全な村作り(SVC)」(通称コマツプロジェクト)は、この7月中旬から第3期が始まりました。対人地雷除去機による地雷処理とその処理跡地に道路、学校建設等インフラを整備して地域復興基盤づくりを支援するものです。

地雷処理をした跡地に中央を縦貫する道路を建設しておりますが、今回は、そこに珍し



い水中橋を構築しました。雨期の増水期に水没しても通過できる設計であり、協力するカンボジア地雷処理センター(CMAC)の隊員にとっても新しい技術の導入になります。雨季明けの11月からインフラ工事が本格化し、来年3月には3校目の小学校が完成する予定です。

## 事務局

6月10日, JMAS 第8回  
通常総会開催



7月20日, ロータークラブ  
例会にて先崎会長が  
講演



10月2・3日, 国際貢献イ  
ベント、グローバルフェ  
スタに参加



10月4日, ライオンズク  
ラブ 330-B 地区セミナー展  
示



10月5日, 都内の中学校  
で出張講演



### 【支援者からの声】

JMAS は多くの方々の暖かなご支援に支えられております。スタッフ一同心より御礼申し上げます。

先日、JMAS を継続的にご支援して下さっている細川様に JMAS との出会いについてお話を伺って参りました。

細川様は 2003 年に受賞した読売国際協力賞の新聞記事をご覧になり、日常生活の中で、道を歩く、子供たちが外で遊ぶと言った日本では当たり前出来る事をするだけで、地雷や不発弾の事故に遭い、手足を失う人が世界には沢山いるということを知り、ご自身でも何か少しでも出来ればという思いで JMAS への御支援を始められたとのことでした。危険な現場での専門家の仕事に対して「地雷・不発弾の処理という命をかけた大変なお仕事を私たちの代わりにして下さい」との暖かな言葉を頂きました。

これまで、7年に亘り JMAS の活動を支えて下さり本当にありがとうございます。これからも、JMAS スタッフ一同力を合わせて頑張ります！



細川本子様(中央)

### 【人事往来】

【役職】  
副理事長  
顧問

【新任】  
7/28 山崎 文夫  
7/28 古賀 英松  
7/28 田川 友康

【退任】  
7/27 國分 政夫

カンボジア

SVC 主任 7/14 庄司 洋平  
SVC 副主任 7/15 高木 茂  
不発弾専門家 7/1 今井 洋平

7/14 庄司 洋平  
10/7 西城 真人

ラオス

現地代表 6/1 黒川 純一  
経理主任

5/31 田川 友康  
6/30 富樫 秀樹

お疲れ様でした



國分さん 庄司さん 西城さん 田川さん 富樫さん

### 【ジャスト・ギビング・ジャパンの紹介】

2001年英国で生まれた「ジャスト・ギビング」はインターネットを活用し、チャレンジャーが自分のチャレンジ目標を掲げ、共感した友人・知人などのサポーターから寄附を募るとい、楽しみながら社会貢献ができる新しい寄附の形です。英国では年間280億円の寄附仲介実績があります。今春、日本版がスタートし、JMASは8月から支援先団体になりました。



早速、安川新一郎さんが「佐渡島トライアスロン完走、JMASに5万円寄附」を目標にチャレンジされ、6万4千円の寄附が集まりました。11月には、2人目のチャレンジャー「ルワンダのパパ」が「63歳、東京マラソンで自己ベスト4時間16分を達成、JMASに20万円寄附」を目標に掲げて下さいました。皆様、是非応援をお願いします。また、3人目、4人目のチャレンジャーとしてご支援下さい。詳しくは JMAS のホームページをご覧ください。

### 【ご入会・ご寄附のご案内】

正会員：(個人)年会費1万円/(法人)年会費5万円  
賛助会員：千円以上 寄附：制限はございません

〈郵便振込〉00170-1-13709 特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会

認定 特定非営利活動法人  
日本地雷処理を支援する会  
(国税庁長官認定：課法11-43号)

JMAS 東京事務所  
〒162-0845  
東京都新宿区市谷本村町3-18  
エムズビル5階  
TEL: 03-5228-7820 FAX: 03-5228-7821  
E-mail: [jmas-hq@jmas-ngo.jp](mailto:jmas-hq@jmas-ngo.jp)  
URL: <http://www.jmas-ngo.jp>

